

仕事を楽しむことが業務効率化のカギに 夢は「複数の分野を極めた専門家」



弁護士法人
LM 総合法律事務所
弁護士 竹中一真氏

横浜のシンボルでもある「横浜ランドマークタワー」の 43 階に事務所を構える「弁護士法人 LM 総合法律事務所」。「横浜でナンバーワンの法律事務所を目指す」「風通しのよい職場環境をつくる」は、創業時から変わらぬビジョンです。代表の竹中一真（たけなか・かずまさ）弁護士によると、これらを掲げてきたことにより「組織の一体感」や「各々が生き生きと働く姿」を感じる場面が多いとか。今回は、組織という一つのチームの中で大事にしていることや、自身の強み、今後の夢などについてお話しいただきました。

弁護士として必要な「コミュカ」を組織作りにも！

今やどんな仕事にも欠かせない「コミュニケーション能力」。中でも弁護士は、「ヒアリング力」や「共感力」が重要だと言われていますが、そのベースにあるのは「協調性」だと思っています。

主張が異なる人とも円滑にコミュニケーションを図り、他者の意見を尊重しながら自分の意見も言える。たとえ自分の意見が通らなかった場合でも、感情でコントロールせず、同じゴールに向かって歩むことができる。当事務所では、そんな「協調性」を持ったメンバー一人ひとりの存在が、組織の一体感を生み出しています。

「風通しのよい職場環境」がもたらすもの

2015 年、現在の事務所を立ち上げた際に皆で決めたビジョンは、「横浜でナンバーワンの法律事務所を目指す」「風通しのよい職場環境をつくる」の二つ。それは、現在も変わっていません。

弁護士という職業は、時に矢面に立って闘うこともあります。それだけに「ホーム」では、信頼が置ける仲間と安心して仕事ができる環境が必要です。創業時から「風通しのよい職場環境」を意識したことで、困ったときはお互いに声を掛け合いサポートし合う体制が出来上がり、今もお根付いていると感じます。

効率化に欠かせないのは仕事の「ワクワク感」

さらに私が組織のリーダーとして目指したのは、「ここで働く全員が、各々の得意分野を生かしながら、自己実現してもらう」ということでした。自分らしく生き生きと仕事をしてほしい。そうすることで、仕事での大きな成長や喜びがあると思っています。

私自身は、働く上で仕事を楽しみ、「ワクワクする気持ち」を大事にしています。これは、仕事の効率化にも関係しているようです。

かつて友人から、「効率化を図るコツは？」と聞かれたことがありました。いろいろ考えて気付いたのが、仕事で「ワクワクする気持ち」を持つこと。「ワクワク感」があるとモチベーションを維持することができ、集中力も伴い、自然と効率化につながってゆくのではないかと。それには「自分が何に興味があり、何が得意か？」を知っておくことが大前提です。

幸い、当事務所は優秀なメンバーに恵まれています。事務所の管理・運営も、分業を徹底して、それが得意な弁護士に任せるようにすることで、より効率的な事務所経営が可能になります。

40 代後半に「僧籍」を取得。複数の分野を極めた専門家でありたい

若い頃から東洋哲学に興味があり、学びを深めると並行し、心の本性に向き合う「瞑想」を行ってきました。そして数年前、ある縁がきっかけで「僧籍」（僧・尼としての籍）を取得。この先、何らかの形で仕事にも生かせればと思っています。

「専門家になるなら『複数の分野を極めた専門家』に」というのは、大学時代に会った先生の言葉。専門性を持った職業に就くと思いが偏ってしまうことがある。法律家なら（一つの分野に留まらず）プラスして哲学、工学など、複数の視点を持ちなさい、というものです。それが私にとっては東洋哲学だったのかな、と思っています。今 50 代を歩む中で、今後の夢は、そんな複数の分野の知識を持った専門家として、世の中が少しでもより良い方向に進むように貢献すること。これからも、そんな夢に向かい、チャレンジし続けたいと思います。

（取材・文／小林 真由美）

